

令和8年度 全国工業高等学校長協会 第74回研究協議会 千葉大会

地区提案協議(北信越地区)

「技術の『志』を育む」 ～貢献意識を核とした工業教育の取組～

令和8年10月16日

新潟県立新津工業高等学校
校長 藤澤 満

「学ぼう! 匠の技と心」

 新潟県立新津工業高等学校

学校概要

(1)所在地 新潟市秋葉区**新津**東町

【旧・新津市】

- ・石油の里
(新津油田～かつて日本一の産油量)
- ・鉄道のまち新津
(鉄道の結節点・新津機関庫・国鉄新津工場…)



『ものづくりの町新津』



スクール・ミッション

【日本独自の匠の技と現代的技術を習得し、地域のものづくり人材を育成する学校】

- ・「工業をもて人を益せん」の精神のもと、日本独自の匠の技と現代的技術を兼ね備えた技術を習得し、地域のものづくり産業の発展を担う人材を育成する。
- ・健康の推進と体力の向上を図り、他者を思いやり、多様性を尊重し、新たな時代を切り拓く ために必要な倫理観をもった、豊かな人間性の育成を目指す。

教育目標

1. 豊かな人間性の育成
2. 工業技術者としての知識・技能・態度の養成
3. 健康の増進と体力の向上

スクール・ポリシー（3つの方針）

【グラデュエーション・ポリシー(抄) [育成を目指す資質・能力に関する方針]

- ①次世代の産業界の発展を担う、情報社会に対応した知識・技術と匠の技を習得し、活用できる力
- ②主体的に工業的な課題を発見するとともに、課題解決に向けた方策を考え、実践する力
- ③ものづくりをとおして、他人を思いやる気持ちや多様性を受け入れて協働し、新たな価値を創造する力
- ④地域の産業界の発展を担うために必要な職業観や勤労観、工業技術者としての倫理観や態度、地域を大切にする心

【カリキュラム・ポリシー(抄) [教育課程の編成及び実施に関する方針]

- ①ものづくりに必要な確かな学力、高度な技術の習得及び課題発見とICTを活用し解決する実践力向上
- ②地域の企業や高度熟練技術者等と連携しながら、実践的な実習により実技を重点化
- ③製品を使用する人の気持ちを考えることで、創意工夫により新たな付加価値の創出
- ④キャリア教育をとおして、望ましい勤労観・職業観及び地域を大切にすることを育む学習
- ⑤身に付けた知識・技術の証としての資格取得

【アドミッション・ポリシー [入学者の受入れに関する方針]

- ①「ものづくり」に強い興味、関心があり、ものづくりに必要な力の向上に意欲のある生徒
- ②創意工夫して主体的に判断し、問題を解決しようとする生徒
- ③他者の意見を謙虚に聞き、協調して行動できるコミュニケーション力のある生徒
- ④学習のみならず、部活動等を通して様々な文化に触れ、心身の健康を維持し、体力を向上させようとする意識、実践する生徒
- ⑤身に付けた知識・技術を活かして地域産業界の発展を目指す生徒

新しい新津工業高等学校は、
社会が求める技能者、技術者を育てます。

沿革 (新しい学校作りの起点)

平成18年度：学科改編と1学級増の計画が公表

平成20年：2学級 (機械システム 1・機械 1)



平成21年：3学級 (工業マイスター-1・生産工学 2)

平成22年：3学級 (" ")

平成23年：4学級 (工業マイスター-1・生産工学 2・ロボット工学 1)

平成24年：5学級 (工業マイスター-1・生産工学 2・ロボット工学 1
日本建築 1)

平成27年：4学級 (工業マイスター-1・生産工学 1・ロボット工学 1
～現在 日本建築 1)

・・・葉 (ひこばえ) : 切り株からたくましく出る新芽

本校の沿革の象徴として、近年まで好んで使用

当校日本建築科について

「日本建築科」の教育プログラム（1／2）

1. 「経験」とおして「技」を習得

- ・ 1年次から3年次まで、週に1日6時間通しての実習時間を確保
- ・ 2年次には、伝統建築棟梁のもとで、デュアルシステムの実施
- ・ 3年次は、実習6時間に課題研究3時間を加えた、9時間の実習時間



2. 匠の「技」を感じ、技術が人の手と責任によって支えられていることを実感

- ・ 建築物見学研修、宮大工による講演会等を実施



「日本建築科」の教育プログラム（2／2）

3. 伝統建築の実務に関連する「周辺技術」を経験

- ・ 建築に関連する各種技術講習会・講演会等の実施



4. 「実物」と「現寸」で実務につながる「技」の修得

- ・ 実物・現寸の、本物の「家」や「便益施設」づくりに挑戦



開校～5年 (H24～28)



H26 茶室「飛翔庵」 (校地内に設置)



H28 三条県民の森「東屋」

開校6年～10年 (H29～R3)



H30 自転車駐輪場 (校地内に設置)



R2 胎内市「ゴミステーション」

開校11年目～(R4～)



R5 県立植物園「東屋」

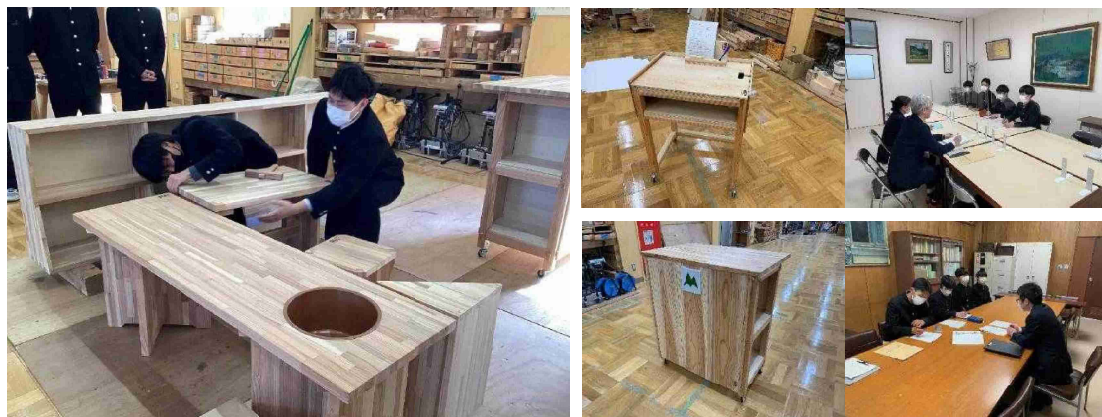


R7 茶席と待合(本校中庭)

その他

○飛翔工務店～模擬工務店の取組

・他校の教育関連物品の製作



「日本建築科」の教育プログラム

Step 1. 「経験」をとおして「技」を習得(実習)

**Step 2. 「匠の技」を感じ、技術が人の手と責任によって
支えられていることを実感(講演会等)**

Step 3. 伝統建築の実務に関連する「周辺技術」を経験

Step 4. 「実物」と「現寸」で実務につながる「技」の修得



○ 特色ある教育のさらなる推進に向けて...

特色ある教育のさらなる推進に向けて

「もの」と「ひと」の課題克服にむけて

(1) 「もの」の課題 ～「実物」と「原寸」に係る課題～

○建築構造物の二一ス等の問題

【前提：法令の確実な遵守】

- ・ 安全な製造を担保するための法令
- ・ 建築行為における法令
- ・ 責任の所在の明確化



教育機関による建築物製造に対するハードルの高さ

- ・ 特別非常勤講師が営む大工業と製造依頼元との契約行為
- ・ 仮設物製作の取組

(2) 「ひと」の課題 ～指導者確保の課題～

○「特別非常勤講師」の確保

(教育職員免許法第3条の2による高度熟練技能士の任用)

- ・ 高度な技術技能に基づく実習指導
- ・ 教材に関する助言
- ・ 高名な技能伝承者による講演・現場見学のコーディネート
- ・ 教職員の技術技能向上に向けた指導



- ・ 高齢化
- ・ 後継者の不足による多忙化
- ・ 本業（建築業）の営みとのバランス

- ・ 業界関係者を通じた人材の掘り起こし
- ・ 卒業生を通じた人材の掘り起こし



R8 :
新規2人を任用

(2) 「ひと」の課題 ～生徒数確保の課題～

入学年度	入学者数	卒業者数	就職者	進学者	建設業への就職者	大工職への就職 (内数)
令和4	22	19	14	5	12	11
令和5	18	17	7	10	6	3
令和6	30	(28)	(18)	(10)	現3年生(進路種別はR8.4月希望調査から)	
令和7	16	(15)	(10)	(5)	現2年生(進路種別はR7.5月希望調査から)	
令和8	30	(30)	—	—	現1年生	

◆入学生徒数の確保

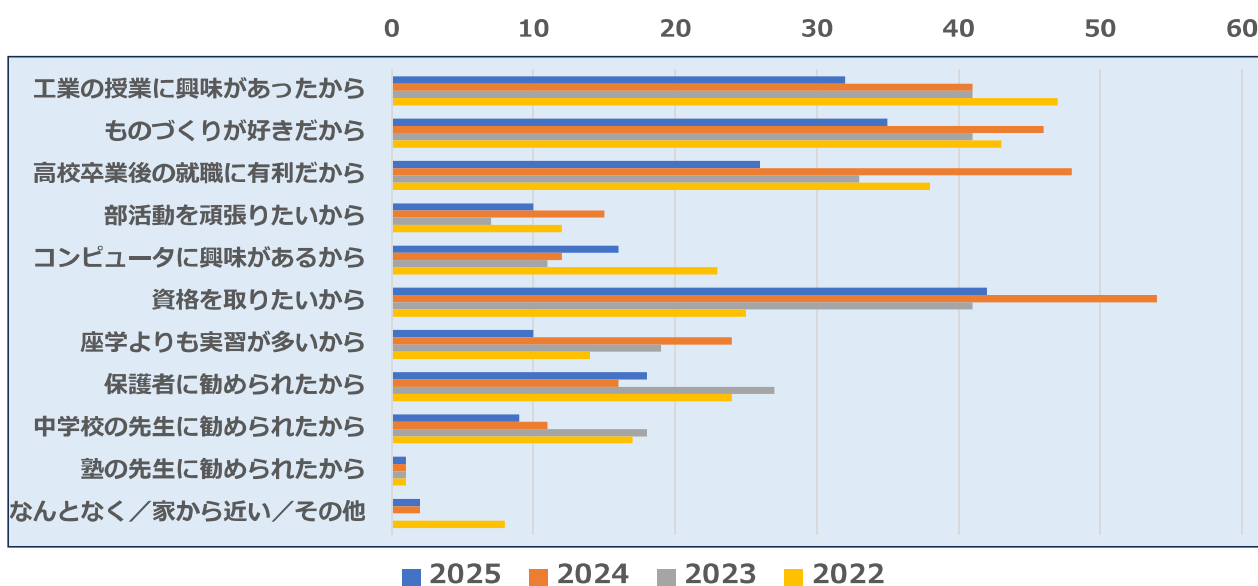
- ・「実物」を「現寸」でつくるためには、チームワークと人数が必要
 - 実習規模の維持
 - 協働的学習の成立
- ・地域産業の担い手確保

◆広報活動のさらなる強化◆

- ・教育活動の発信
 - メディア／催事出展／小中出前授業…

○新入生アンケートから（毎年5月実施）

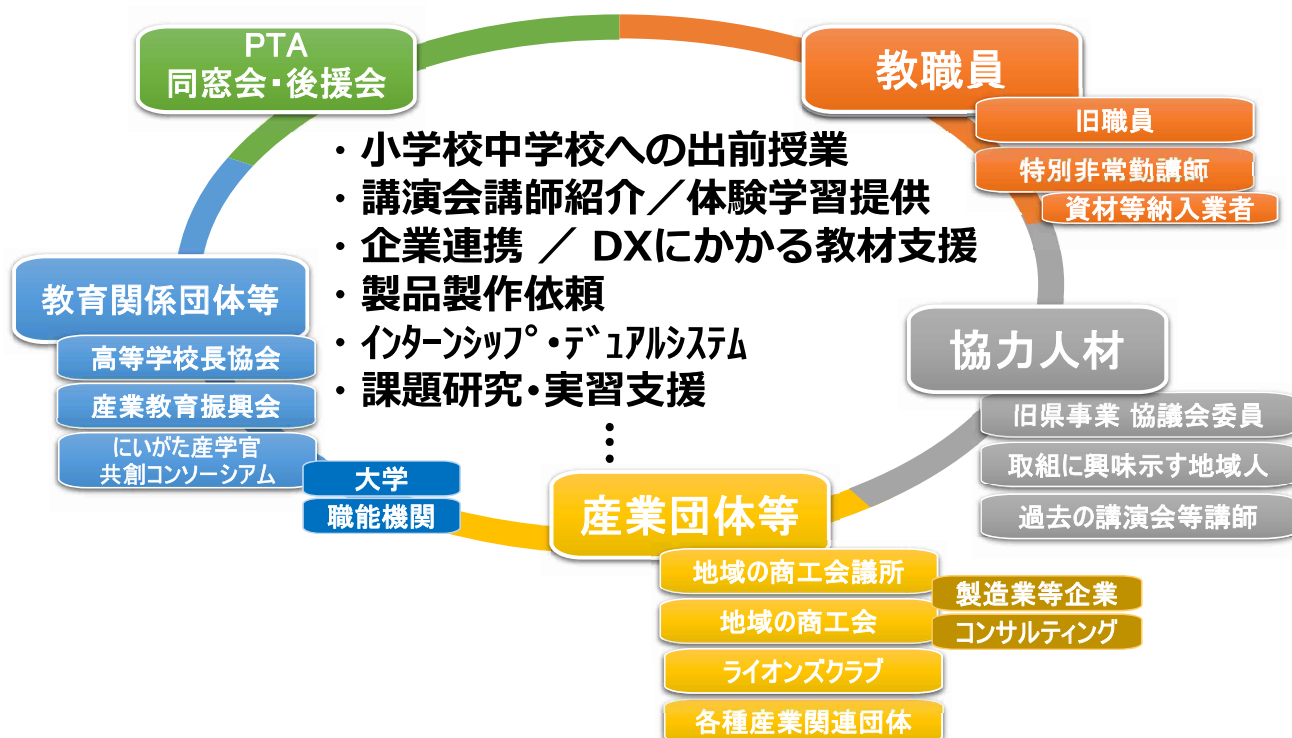
本校を受検した理由を選んでください



まとめ～特色ある教育のさらなる推進に向けて

取組の持続化にむけて

◆本校の取組を支えてくれる人財構成



まとめ～特色ある教育のさらなる推進に向けて

新潟県高等学校長協会 工業部会の取組
「にいがた産学官共創コンソーシアム」について

「にいがた産学官共創コンソーシアム」について

○目的

参加機関(新潟県内工業系教育機関及び関連企業)が抱える様々な課題を解決に向け…

- ・ 参加機関夫々の強みや特色を活かしながら共創する
- ・ 県内工業系高等学校の課題を解決することが、参加機関の課題解決につながる← [目的の第一義とする]

連携協定を締結し、コンソーシアムの設立

「にいがた産学官共創コンソーシアム」について

○参加機関

- ・新潟県教育委員会
- ・新潟県高等学校長協会工業部会
- ・新潟工科大学
- ・新潟薬科大学
- ・新潟職業能力開発短期大学校
- ・新潟県立テクノスクール
- ・新潟工科大学産学交流会

事務局：新潟工科大学



「にいがた産学官共創コンソーシアム」について

○連携事項

- (1) **人材育成**に関すること。
- (2) 教育に関すること。
- (3) 技術指導に関すること。
- (4) **イベント実施**に関すること。
- (5) 工業の魅力発信に関すること。
- (6) 参加機関の相互の連携や発展に関すること。
- (7) その他、目的を達成するために必要な事項
に関すること。

「にいがた産学官共創コンソーシアム」について

①教員養成促進プロジェクト

大学の教職(工業)課程受講者への意識醸成

- 学部2年生 工業高校見学（半日日程）
 - ・ 工業高校について
 - ・ 授業見学（状況に応じて複数学科を見学）
- 学部3年生 教員実地体験ニインターンシップ°（全日日程）
 - ・ 工業高校の教員の業務について
 - ・ 授業体験（複数学科の授業補助）
- 学部3年他 「教職論」における現役教員による講義
 - ・ 講義テーマ「教員の役割についての講話（90分）」
 - ・ 担当者：工業高校管理職及び工業科教諭

「にいがた産学官共創コンソーシアム」について

②イベント実施に関する連携

- 2005年まで 「新潟県産業教育フェア」
- 2006年から 「工業教育フェスタ」
 - ・ 高校生ロボット競技大会
 - ・ マイコンカーラリー競技大会
 - ・ 県内工業高校の紹介：パネル展示・作品紹介・ワークショップ等
- 2025年から 「工業教育フェスタ」における連携
 - ・ 高校生ロボット競技のデモンストレーション
 - ・ マイコンカーラリー競技のデモンストレーション
 - ・ 県内工業高校の紹介：パネル展示・作品紹介・ワークショップ等
 - ・ 新潟地域ものづくり企業の照会等イベント



「工業教育フェスタ」について

○成果

【R 6 来場者数】

大人	160人
中学生以下	120人
高校生	90人
関係者	180人

計 550人

【R 7 来場者数】

大人	532人
中学生以下	457人
高校生	82人
関係者	102人

計 1173人

- ターゲットを未就学児・小中学生に絞り、
連携先からの人的・経済的な支援を得ることで
一定の成果を得られた。

今後とも、ご縁を大切にして、関係機関等と教育意図を共有した連携を通じて「すごい」と「ありがとう」をキーワードとし、「貢献意識の醸成」を通じて、技術の『志』を育み、地域に貢献できる人材を育成することを大切にしたい

【近年の著名な成果】

・第9回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞受賞

～日本建築科8期生 松本航希さん（令和元年入学）

3年在学時、2大会全国優勝の実績が特に優れた成果を残したとして評価され、文部科学省青少年の部で受賞

・FNS27時間テレビにて全国放送（令和6年7月）

7月20日（土）FNS27時間テレビ「青春スゴ技リレー」に出演



写真:首相官邸提供
(令和5年1月)



ご清聴 ありがとうございます